（コラム）『終戦日について』

第二次世界大戦（太平洋戦争）の“終戦記念日”は8月15日です。

しかし、これは日本人だけの常識でしかありません。この日は、昭和天皇が玉音放送を通じて国民に対して武器を置いて敵対行為を慎むように「休戦」を語りかけた日です。事実上の“日本が降伏した日”は、ポツダム宣言を受諾した8月14日となります。

アメリカでは、東京湾上に浮かんでいた戦艦ミズーリ号で日本が降伏文書に調印した9月2日を“対日戦勝記念日(終戦の日)”としています。

また、中華民国（台湾）では、その翌日の9月3日を“抗日戦争勝利記念日（終戦の日)”としています。

中国では、1949年に成立した中華人民共和国の政権が安定してきた1956年になってから、ようやく戦後処理に取り組むようになりました。しかし、日本人戦犯を裁く法的根拠が乏しかったことから、中華人民共和国には2014年まで正式な終戦記念日というものは存在しませんでした。

ソ連は、1945年8月9日に対日戦を開始したばかりで、9月2日は北方領土の歯舞島の攻略作戦中でしたが、他国に合わせて翌9月3日を“対日戦勝記念日(終戦の日)”としていました。しかし、ソ連崩壊後にその後継国家を称するロシアは、2010年になってから9月2日を“第二次世界大戦が終結した日”と改めています。

※このコラムも今年の7月に発行予定であった社内報に掲載するために準備していたものです。
発行予定の時期が「終戦の日」に近いこともあり、このような内容のコラムを作成いたしました。
次号の発行時期である10月末では、時期を逸しているということから“ボツ”としました。
せっかく作成しましたので、こちらに発表の機会を求めて掲載します。(S・T)